

選択型実験を用いた知床でのエコツーリズムにおける潜在需要の評価

徳島大学大学院 学生会員 ○礎有希 徳島大学大学院社会産業理工学研究室 正会員 河口洋一
一般社団法人知床しゃり 非会員 寺山元 徳島大学大学院社会産業理工学研究室 正会員 渡辺公次郎
徳島大学大学院社会産業理工学研究室 非会員 佐藤雄大

1.はじめに

エコツーリズムは「環境への保全がなされ、地域住民の福利に貢献している、自然地域への責任ある旅行」がその定義の1つであるように、自然の賢明な利用と地域の持続性を共に実現する手段として1990年以降用いられるようになった。世界自然遺産に認定された知床半島においても、希少で豊かな生態系を活かしたエコツーリズムが盛んに行われきた。しかし現在、知床を含め日本の多くの地域が、過疎化や高齢化による地域の衰退に直面しており、今後の地域の持続について大きな課題を抱えている。そこで、本研究では知床を対象に、ツーリズムの要素となる地域資源に対する消費者の反応を調査することで、地域が今後改善すべき点や強化すべき点が明確になると考え、Webアンケートを用いて観光客の潜在需要を明らかにすることを目的とした。

2.調査地概要

調査の対象地としたのは、知床半島西側に位置する斜里町である。斜里町は、1960年代に知床林道や知床横断道路が建設されて以降、国立公園指定や世界自然遺産登録を経て、現在までツーリズム事業が活発に継続されてきた。また、一方では農業や水産業といった一次産業とそれに関連する食品加工業も中心産業として地域を支えている。このように、観光業、一次産業ともに盛んであるものの、都市部への人口流出や少子化により斜里町の人口は1960年以降減少を続け、それに伴う過疎化や高齢化、産業の担い手不足が深刻となっている。このような問題を解決する1つの手段として知床でのエコツーリズムを位置づけ、調査を行った。

3.方法

今回の調査には、コンジョイント分析の一手法である選択型実験を用いた。エコツーリズムを構成する、総費用、自然体験、野生生物の数、ガイドの説明、文化体験の有無、食事の6つを属性とし、それぞれの属性に対して水準を設定した。直交計画に従い作成した21個のプロファイルのうち3つと「いずれも選ばない」を含めた計4つを1つの選択セットとし、調査票には重複の無い5つの選択セットを組み込んだ。回答者は各選択セットに対して最も望ましい選択肢を一つ選ぶ作業を5回行った。調査はWeb上でを行い、事前のスクリーニングにおいて知床への旅行に興味がある・少し興味があると答えた400人から回答を得て、374名の回答を解析に用いた。

4.結果

サンプル400人の内訳は男性291人女性109人であった。その中でも50代男性が最も多く、前後の40代60代と合わせて全体の6割以上を占めている。Web調査における条件付きロジットモデルの推定結果を図-1に示す。推定された効用値が統計的に有意でかつ符号が正である項目は、プロファイルがより選択されることを示し、また負である項目はその逆であることを示している。まず、自然体験では観光クルーズの効用係数が最も大きかった。訪問経験別では経験のないグループの方が知床五湖や羅臼岳登山の効用値が大きく、より選好される結果となった。次に、野生生物については統計的に有意な結果とはなかったが、経験なしのグループでは負、経験ありのグループでは正の効用値となり、訪問経験の有無で対照的な結果となった。ガイドの有無では、全体として効用値が正であり、より詳細な説明の方が好まれていた。

また 訪問経験別では、経験なしのグループの方がよりガイドへの効用値が大きかった。文化体験については統計的に有意な結果ではなかったが、経験なしのグループでより選好されていた。最後に食事では、全体で現地の食材の効用値が大きく、経験なしのグループと比較すると経験ありのグループの現地の食材への選好性は大幅に小さくなっていることが分かる。

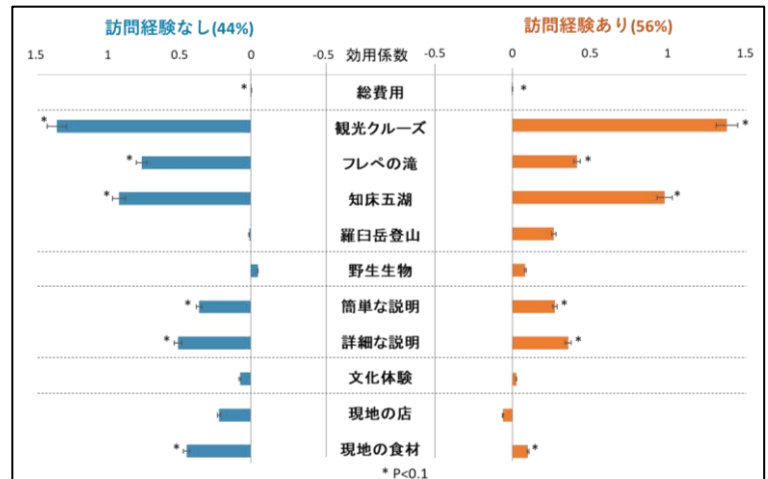


図 1 訪問経験別の効用値の比較

4. 考察

自然体験の中では観光クルーズが最も選好されていたが、これはサンプルの年齢層が高いことが1つの要因となったと考えられる。経験ありのグループは知床五湖や羅臼岳登山などの体験を好んでおり、潜在的なリピーターはより自然の中へ踏み込んだ体験を求める傾向にある。ガイドの説明については、訪問経験によらず詳しい説明の方が好まれており、この選好性は知床が目指す質の高いエコツーリズムやガイドの雇用創出に繋がることから、地域にとって良い傾向が示された。次に食事では、訪問経験のあるグループでは経験のないグループほど現地の食材は選好されなかった。これは、旬やおすすめが不明確である、地元の食材が入手しづらいといった現地での課題が要因の一つであると考えられる。つまり、知床現地での情報発信や流通などの産業構造が、本来魅力的な地域資源を活かしきれない原因となっている。

最後に、地域としてより強化していく点と改善すべき点を整理する。野生動物に対するマナーの普及啓発や博物館の利用促進といった斜里町総合計画に現在も存在する項目はより強化していく点である。一方で、ガイドの役割を活かしていく施策や距離感を考慮した野生動物を活かす施策などの現在取り組みのない項目は、今後改善すべき点である。よって今回の調査から、知床の地域資源を活かしたエコツーリズムには、ガイドによる質の高い体験の提供と観光業者にとどまらない地域産業間の連携が重要であることが明らかになった。